



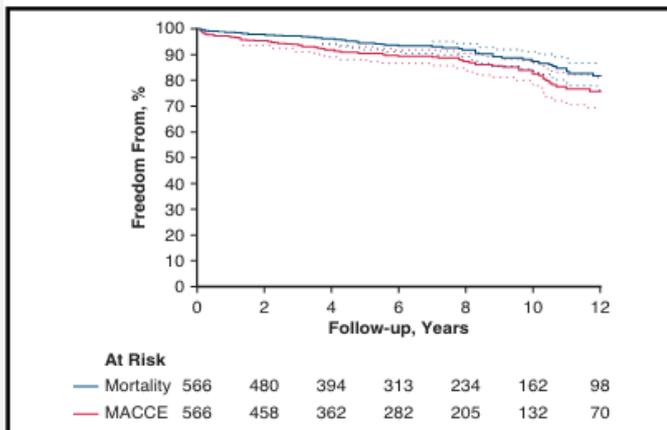
Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

Long-term survival, cardiovascular, and functional outcomes after minimally invasive coronary artery bypass grafting in 566 patients

Procedural

Robotic CABG	58 (10.3%)
HCR	35 (6.2%)
Single-vessel revascularization	283 (50.0%)
Multivessel revascularization	283 (50.0%)
2 grafts	182 (64.3%)
3 grafts	97 (34.3%)
4 grafts	4 (1.4%)
≥2 arterial grafts	103 (36.4%)
Use of radial artery	86 (30.4%)

MICS-冠動脈バイパス手術（CABG）は2009年に報告された術式であり、低侵襲性が話題となりましたが遠隔期の成績は不透明でした。2023年 OttawaよりMICS-CABGの遠隔成績が発表されました。平均年齢が60代、MICSに適した患者というSelection Biasがありますが、その遠隔期成績は12年の生存率が90%程度と圧巻の成績でした。



Long-term freedom from all-cause mortality or MACCE for patients who underwent MICS CABG.

半数がRobot併用下の1枝バイパス、半数が通常MICSであり、患者の状態に応じて使い分けることで様々な患者にMICSを適応する事が可能となります。また高齢化が進む日本において、術後早期成績を改善する事は遠隔期成績の改善に大きく寄与すると考えます。

当院のCABGの80%はMICSで行っております。ご希望の患者様がおられましたら是非ご紹介下さい。



文責 心臓血管外科 山中 将太

スタッフ紹介 Vol.33



2018年から非常勤として勤務しており、現在は川口市安行吉岡でクリニックを開業し、2週間に1日当院で心エコー検査を担当しています。クリニックと連携し日々助けて頂き、感謝しております。開業後に体重が10kg増減しており、早朝のジム通いを始めましたが言うまでもなく失敗に終わりました。

循環器内科 非常勤医師

ちねん内科クリニック 院長 知念 大悟

過去のハートチーム通信はこちら →

